

「カラコル」を手に商品の説明をする大木社長(左)=県庁で

口腔ケア用品、ネックレス…



炭素を使った製品を開発する大津市のメーカー「大木工芸」が、医療や美容など多彩な分野で次々に新製品を開発している。一月には口腔ケア用品の「カラコル」を発売した。炭素を使った商品群は、産学協同による信頼性があり、三年後の売上高は現状の十数倍となり、大躍進を見込む。

(野瀬井寛)

炭素製品 产学協同で熱く

カラコルは、振動と温熱により歯茎をマッサージする道具。電動歯ブラシに似た形で、素材に使った加熱ヘッドを先端に取り付けた。京都府立医科大などとの共同開発で、定価は税抜き三万六千八百円。今後は歯周病の予防効果を検証し、医療機器としての認証を目指す考えだ。

炭素は金属と異なり、アレルギーなどの害が少なく、軽量で熱を伝えやすいことが利点。カラコルは、電源を入れるとすぐに温か

くなり、電力消費が少ないのも特徴という。年間の販売目標は一万個。発売から三ヵ月で歯科業界からの問い合わせが相次ぎ、通販番組でも取り上げられるなど滑り出しは予想以上に順調だ。「二年目には年十万台の売り上げも十分見込める」と大木武彦社長(右)の鼻息は荒い。

一九七〇(昭和四十



軽さと省エネ売り

大津の「大木工芸」

くになり、電力消費が少ないのも特徴という。

年間の販売目標は一万個。発売から三ヵ月で歯科業界からの問い合わせが相次ぎ、通販番組でも取り上げられるなど滑り出しは予想以上に順調だ。「二年

目には年十万台の売り上げも十分見込める」と大木社長は言つた。

今後一~二年で、これまでの多くの研究成果が商品化段階を迎える。海外の有名ブランドとの契約も決まっており、美容分野の商品を強化し、二〇二〇年には現在の十倍以上となる五十億円の売上高を目指している。

一方、用途の広がりが注目されている産業用向け炭素部品も、拡大を図る。一三年、香川県に工場を設け、電子機器用コンデンサーなどの開発を進めてい

る。日用品で利益を得ながら、新しい分野の開拓にも余念がない。

2014年度の県GDP成長率全国下回る名目、製造業伸びず県がまとめた県民経済計算の推計結果によると、二〇一四年度の県内総生産(県GDP)の名目経済成長率は0・1%増で、全国の1・5%増を下回った。

月円

大津市

十

%



大木工芸が開発した炭素を使ったネックレスや万年筆=大津市中野の同社で

成長を支えるのは、多数の学術機関との共同研究で、これまでに四十四件の特許を取得した。「健康への効果をきちんと検証していくことが、信頼と売り上げにつながる」と大木社長は言つた。

最近は培ってきた技術を美容分野に応用。遠赤外線による温熱効果で血行を改善すると、いうネックレスは年三億円と、同社の売上高を強化し、二〇二〇年には現在の十倍以上となる五十億円の売上高を目指している。

一方、用途の広がりが注目されている産業用向け炭素部品も、拡大を図る。一三年、香川県に工場を設け、電子機器用コンデンサーなどの開発を進めてい

る。法人を含む県民が受け取った額を表す県民所得は前年度比2・1

県GDP(名目)は五兆八千四百五十九億円。国内総生産に占める割合は1・19%で前年度から0・02ポイント減った。業種別では、製造業が前年度比1・3%減少した一方、運輸業や電気・ガス・水道業などは増加した。物価の変動分を除いた実質経済成長率は0・6%

減だった。

の八割を占める主力商品になつた。

成長を支えるのは、多数の学術機関との共同研究で、これまでに四十四件の特許を取得した。「健康への効果をきちんと検証していくことが、信頼と売り上げにつながる」と大木社長は言つた。

月円

大津市

十

%